

# 西紀っ子だより



〒669-2716  
兵庫県丹波篠山市乗竹650  
TEL：079-593-0024  
FAX：079-593-0249  
Email：el-nishiki@school.sasayama.jp



未来を切り拓き、夢をかなえる力の育成～郷土を愛し ころ豊かにたくましく～

(文責：藤原典英)

## あたたかな思いの『バトンを繋げる』

6月も終盤にさしかかりました。今月9日に梅雨入りしたとはいえ、連日の晴天で暑い日が続いています。小学校では、五年生が6月16日（月）から20日（金）までが自然学校に出ています（本号を作成しているのが6月19日なので、まさに自然学校の真っ只中です）。熱中症や怪我・病気等に気をつけなければなりません、自然の中でしか学ぶことの出来ないことがあります。無事に最後まで活動をやり切ることが出来る様に、祈るばかりです。

小学校も一学期の残りが一ヶ月ほどとなりました。ひと月後に、子どもたちが「こんなことが出来る様になった」「こんなところが自分の成長したところだ」と言える様に、支援していきます。

さて、先日こんな嬉しいエピソードを教えていただくことが出来ました。

子どもが下校後、「お母さん、中学生に守ってもらった！」と言ってきました。話を聞いてみると、帰りのバスの車内に蜂が何匹か飛んでいたようで、一緒に乗っていた中学生何人かが蜂が小学生の方に行かないように囲んでくれたり、蜂のいない方へ座るように声をかけてくれたりしたそうです。「守ってもらった」という言葉が出てきたこと、子どもの口から初めて聞いたので、大変嬉しかったです。毎朝の登校時のバスの車内でも、中学生が小学生に席を譲ってくれたり、素敵な思いやりがみられます。自分がしてもらったことを同じように、下の子たちや誰かのために率先して出来るよう、バトンを繋げていってほしいと思います。

このエピソードを聞いた時、私はその中学生の背後に、地域にくらす多くの先輩の姿をみる事が出来ました。きっとその中学生も、小学校時代に同じ様にしてもらったのでしょう。そしてそのまた先輩も、同じ様にしてもらってきたのでしょう。まさに、『バトンを繋げていっ』た結果が、今に繋がっています。

人と人がかかわってくらしている以上、「思い」は、伝播するものです。このエピソードに示されている通り、あたたかな思いの『バトンを繋げていく』ことが広がって欲しいと願っています。それが学校や地域としての風土であり、文化であり、伝統なのです。それらが人を創る礎となるのです。そのために我々大人が出来ること、それは、子ども自身がそのバトンを渡せるような声かけや支援をしていくことです。子どもの姿から学ぶことの出来る環境に身を置くことに感謝しつつ。



地域の方から、お花をいただきました。本当に有難いことです。花を見ていると、一所懸命に咲こう、咲こうとする姿に心をうたれます。命の輝きですね。お花を有難う御座います。

学校に着くと玄関の正面に掲げていた言葉をまず黙読する  
「子どもこそは 大人の父ぞ」  
英国の詩人ワーズワースの言葉だ  
これを読みながら  
子どもから 大人が生まれる  
子どもから 次の日本が生まれる  
その子どもを育てるために この学校があり  
私が  
と、自分に  
言い聞かせる

子どもから学ぼう、学ばせてもらおうと思いつつ、つい教師根性が出て、こちらの思う通りにさせようとする私が居ます。そんな時は、上に記した東井義雄先生の言葉を思い出し、自分を戒めます。そして、子どもから謙虚に学び、子どもの思いを紡いでいこう、と気持ちを新たにします。子どもから学ぶとはどういうことかを常に考えながら。

◎ご意見・感想をお聞かせ下さい◎  
「西紀っ子だより」へのご意見や感想をお聞かせ下さい。下のQRコードを読み取っていただくと、フォームにつながります。または、学校でお話をうかがうことも出来ます。いつでもお越しください。



## ☆自然学校で自分にチャレンジしています ※六月十九日現在☆

五年生が、6月16日(月)から四泊五日の自然学校にチャレンジしています。

西紀連合の自然学校のテーマは、『自分を磨く～自主・自立～ 共に学び、友に学ぶ～26人で協力～ 自然と対話～海辺の暮らし発見～』です。柱が三つありますが、大きな枠で考えると、どれも「成長」につながるものです。開校式でも、「自然『学校』であって、自然『宿舎』じゃないんだよ」という話をしました。場所をいつもの学校から竹野に変えただけで、起きてから寝るまでの全てが学習の時間だよ、とも伝えました。そこでしか出来ない学びがあり、そこでしか得ることの出来ないものがある、そういったことを通して自分自身や皆での成長に繋げていって欲しいと願っています。

一日目のメインは、丸太切り体験(本校)・缶詰づくり体験(県立香住高等学校)でした。丸太切り体験では、一本の丸太を、活動班で協力して切っていきます。一人では決して切ることが出来ません。対して、一人一人が鯖の缶詰をつくっていく「缶詰づくり体験」は、作業は個人ですが、包丁の使い方、魚のさばき方等々、お互いに声をかけないと進まない場面が多くありました。ひとつの目標に向かって互いに声をかけあう姿を通し、気持ちが通い合っていく様子が伝わってきました。缶詰体験を終えた後は、香美町の柴山漁港に移動しました。そこで、五年生の社会科の学習内容である「漁業」に関するお話を漁協の方からうかがいました。漁船を間近で見学させてもらったり、冷蔵庫に入れさせてもらったりして(水に濡らしたタオルがカチンカチンに凍りました)、現地に出向かないと出来ない学習をすることが出来ました。

二日目は、県立円山川公苑でのカッター・カヌー・カヤック体験でした。カッターは、重い重い櫂を二人で操作します。また、準備する時と片付ける時は、自分の座席の前の人たちに協力してもらわなければなりません。櫂を皆で起こし、使う人に確実に渡すその瞬間に、信頼が生まれます。櫂の使い方も、慣れるまでは本当に難しいです。大きくて重い一本の櫂を、子どもたちは二人で操作しなければなりません。その櫂が、一艇に6本あるのです。皆が心と力を合わせなければ、船は決して前には進むことが出来ません。だからこそ、船が大きく大きく前に進みだした時に、共通の達成感と何にも代え難い絆が生まれます。リーダーさんの「そーれ!!」という声に合わせて、子どもたちが力強く「よーいしょ!!」と叫ぶ姿を間近で見ると、こちらも力強く「よーいしょ!!」と声が出ていました。

子どもたちは、一日目で「声をかけ合うことで力を合わせることが出来る」、「力を合わせたら何かを成し遂げることが出来る」といったことを学びました。そして二日目で、心をつなぐことで「学校の垣根をこえて西紀の仲間として活動することが出来る」ことを学びました。5日間のプログラムを終えた時、どの様な成長をして帰ってくるのかを楽しみにしています。

※三日日以降の内容につきましては、西紀小学校のホームページを御覧ください



### △7月の行事予定▽

2日(水)	個人懇談一日目	11日(金)	クラブ活動
3日(木)	個人懇談二日目・ すくすくカード開始(9日迄)	14日(月)	学年費等JA引き落とし日
9日(水)	朝のお話会	16日(水)	給食最終日・全校終会12:35
10日(木)	みんな遊び・下校見守り	17日(木)	大掃除・全校集会11:35
		18日(金)	一学期終業式

